

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成27年1月29日(2015.1.29)

【公開番号】特開2013-181092(P2013-181092A)

【公開日】平成25年9月12日(2013.9.12)

【年通号数】公開・登録公報2013-049

【出願番号】特願2012-45330(P2012-45330)

【国際特許分類】

C 08 G 63/199 (2006.01)

C 08 G 63/78 (2006.01)

【F I】

C 08 G 63/199

C 08 G 63/78

【手続補正書】

【提出日】平成26年12月5日(2014.12.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

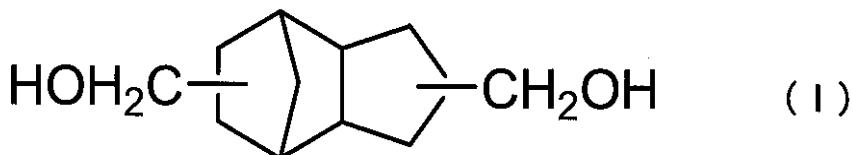
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

下記式(I)で示される脂環族ジオールを全ジオール成分中90モル%以上共重合させ、固有粘度が0.60~0.80dL/g以下である共重合ポリエステルであって、ガラス転移温度が110℃以上であることを特徴とする共重合ポリエステル。

【化1】



【請求項2】

前記共重合ポリエステルがエチレンナフタレート単位またはエチレンテレフタレート単位を含有する請求項1記載の共重合ポリエステル。

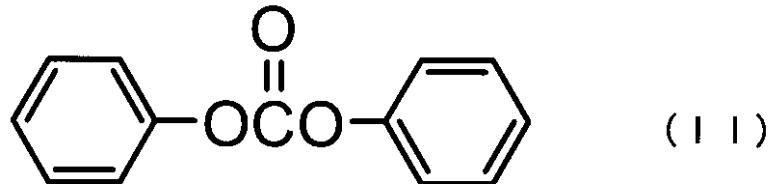
【請求項3】

芳香族ジカルボン酸または芳香族ジカルボン酸の誘導体と、前記式(I)で示される脂環族ジオールを原料とし、前記式(I)で示される脂環族ジオールが全ジオール成分中90モル%以上共重合され、固有粘度が0.60~0.80dL/g以下である共重合ポリエステルであって、ガラス転移温度が110℃以上である共重合ポリエステルの製造方法において、少なくとも下記の工程を含んでなることを特徴とする共重合ポリエステルの製造方法。

工程1：前記芳香族ジカルボン酸または芳香族ジカルボン酸の誘導体と、前記脂肪族ジオールおよび前記式(I)で示される脂環族ジオールとを溶融状態で反応させ、共重合ポリエステルを得る工程

工程2：前記工程1で製造した共重合ポリエステルと下記式(II)で示される重合促進剤との反応で、共重合ポリエステルの固有粘度を重合促進剤との反応前の固有粘度より増

加させる工程
【化2】



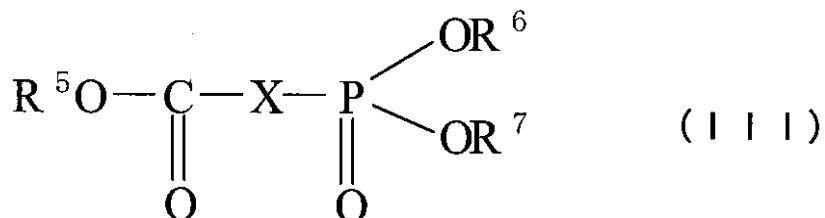
【請求項4】

前記工程1と前記工程2を同一反応槽内で行なうことを特徴とする請求項3に記載の共重合ポリエステルの製造方法。

【請求項5】

下記式(III)で表されるリン化合物を、前記共重合ポリエステルを構成する2価のカルボン酸に対して10~50mm 1%含有することを特徴とする請求項3または4に記載の共重合ポリエステルの製造方法。

【化3】



[上記式中、R⁵、R⁶およびR⁷は、同一または異なって炭素数原子数1~4のアルキル基を示し、Xは、-CH₂-またはCH(Y)-を示す(Yは、ベンゼン環を示す)。]